

2017年9月5日

認定動物看護師養成新コアカリキュラムについて

(一財) 動物看護師統一認定機構 機構長 佐々木伸雄
同・カリキュラム検討小委員 委員長 石岡 克己

現行の動物看護師統一認定機構（以下、機構）推奨カリキュラムが、教育現場における認定動物看護師養成に取り入れられてから4～5年が経過した。この間、教育現場ではその効果は十分に認識されてきたが、改善すべき点も指摘されるようになった。そこで機構では、カリキュラム検討小委員会を設置し、各教育機関等からの意見を取り入れ、新たな認定動物看護師養成コアカリキュラムを策定した（別表1）。すなわち、2016年春から全国動物保健看護系大学協会と全国動物教育協会の協力の下で現行のコアカリキュラムの問題点を整理し、原案を作成した。今春には1ヵ月間に亘るパブリックコメントを行って再度意見等を集約した後、カリキュラム検討小委員会において最終案を決定した。なお、今回の新コアカリキュラムの内容は従来のコアカリキュラムの全面的な見直しではなく、教育現場から指摘された問題点を基に、教育内容について整理・統合を行ったものである。

1. 認定動物看護師養成に関わる新コアカリキュラムの策定指針

- 1) 従来、若干の差異がみられた大学と専修学校のコアカリキュラムに関し、共通するコアカリキュラムとした。
- 2) 人医療における看護学用語は、獣医療現場での混乱を避けるため、学術的な実績があり、今後も使用が望ましいと判断した用語のみ採用した。
- 3) 認定動物看護師は人医療における栄養士や臨床検査技師としての役割も担うことから、それらを踏まえたカリキュラムとした。
- 4) 認定動物看護師の主な職域は伴侶動物の臨床であるが、将来的な公的資格の視点を踏まえ、産業動物や実験動物、野生動物についても総論を学ぶこととした。

2. 現行コアカリキュラムからの主な変更点（現行コアカリキュラムとの対応は別表2を参照）

- 1) 動物看護系科目に関し、基礎動物看護学、応用動物看護学、臨床動物看護学の3分野に分類した。
- 2) 臨床系科目の各論を臨床動物看護学各論として整理し、疾患別、症状別など異なる分類の併記を廃止して内容の重複を排除した。

- 3) 産業動物学や実験動物学、野生動物学をそれぞれ独立科目とした。
- 4) 動物を扱う専門職として必須と判断したため、動物福祉に倫理を追加した。
- 5) 基礎系実習科目として動物形態機能学実習を導入した。
- 6) 動物看護総合実習は、総時間数の半分までを動物病院以外（盲導犬センター、牧場、動物園、水族館、各種企業等）での実習も認めることとした。これは将来的な職域拡大を念頭に置き、幅広い分野での知識・技術習得を推奨するためである。

3. コアカリキュラム以外の時間について

- 1) 専修学校では、総時間数を 2,280 時間と少し減らした。コアカリキュラム以外の時間数は 480 時間から 630 時間に増加する。これらの時間の教育内容に関しては、各専修学校、大学が独自に設定できるものである。

専修学校においては、今回のコアカリキュラムから外れた、動物飼育実習を加えることが望ましく、また、学生に徹底した教育内容を身に付けさせるため、コアカリキュラム科目をⅠとし、それに引き続くその科目のⅡ、として実施するなどの繰り返し教育、コンピュータ技能や外国語科目等である。さらに、動物看護総合実習を増やす、あるいはインターンシップ（国内、海外）を企画するなどもひとつの考えである。また、専門職として社会的認知を獲得するうえでボランティア活動や社会人としてのスキル教養（自主性、道徳性を含む一般的社会人基礎力）も有用と考えられる。これらの時間の目的は、卒業時に認定動物看護師としてより高く、即戦力となるための知識・技術を身に付けさせることであり、その考えに沿って各専修学校で考えて欲しい。

なお、630 時間を 1~2 科目の実習等で実施することは決して好ましいことではなく（1 科目は少なくとも 630 時間の 1/3 以下であることが望ましい）、様々な実習、新規科目を増やすなどの対応が望まれる。

- 2) 大学においては、コアカリキュラム以外の時間は一般教養科目や各校独自の専門科目、研究室ゼミ、卒論研究などに当てることが考えられる。大学は指導者や教育者、研究者の養成を念頭に置き、より学術的、専門的な教育のための時間として利用して欲しい。